

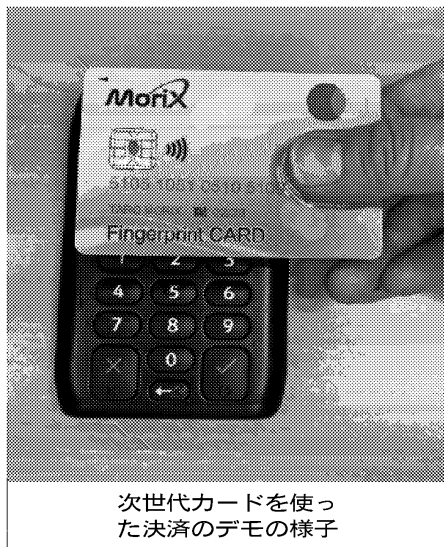
クレジットカード大手の米マスターカードが発行する指紋認証機能を搭載した次世代クレジットカード

モリックスの指紋認証採用

どと本格的な検証に入り、早期の実用化を目指す。

に、認証システム開発のモリックス（東京・千代田）が開発した技術の採用が決まった。同社によると次世代カードで認証を受けたのは日本企業では初という。まず国内を中心に実証実験を進めて、2021年度にも実用化したい考えだ。22年度には国内で100億円規模の事業に育てる。

モリックスはマスターカードの次世代カードの仕様として求める規格に適合した技術を開発し、製造と販売の認定を受けた。既に海外の半導体メーカーなど量産体制を整えたという。8月にも国内の金融機関な



次世代カードを使った決済のデモの様子

と比べてセキュリティ性能が高い。世界中で増加するなりすましなどの詐欺被害の防止につながる。カードは指紋センサーに指を置いた状態であれば、指を置いた状態であれば、指紋認証機能で認証され、決済が可能になる。また非接触のタッチ決済にも対応する。指紋情報をカード内だけに保存するため、「情報漏

次世代マスターカードに

内では次世代カードを300万枚ほど販売する計画で、100億円の売り上げを見込んでいる。既存のカードの置き換えが進めば事業規模をさらに拡大できる見込みだ。供給能力が限られるため、モリックスはまずは国内と一部のアジア市場向けにカードを供給する計画だ。

マスターカードが発行するクレジットカード枚数は世界で約28億枚とされる。海外の競合ベンダーも同様の機能を持つ指紋認証カードの開発を進めているとされ、早期の実用化と生産能力の確保が、どれだけのシェアを獲得できるかに直結する見通しで、モリックスも供給力の拡大を急ぐ。日本クレジットカード協会によれば、2020年の国内のクレジットカードの不正利用被害額は253億円だった。世界ではクレジットカードの詐欺被害が3兆円以上にも上り被害は深刻だ。セキュリティ性能の高い次世代カードは、世界で需要が高まる見込みだ。モリックスには、クレジットカード以外にも入室管理などの用途で電力会社などから問い合わせが増えているという。東京電力では20年9月に原子力発電所の制御室に所員が他人のIDカードを使って不正に入室したことが判明して問題になった。重要施設などのセキュリティを高める用途で指紋認証機能付きカードは需要が高まりそうだ。

（佐藤雅哉）